

新入試に対応し「思考力・表現力」を育成する4つの教材・アセスメント・テストを発売

2021年度入試から始まる大学入学共通テストでは、「知識・技能」とともに「思考力・判断力・表現力等」を中心に評価する問題が出題される予定だ。また、各大学の一般選抜における個別試験でも、記述式問題の導入・充実が求められている。こうした大学入試の変化の中、高校での生徒の思考力・表現力の育成・評価が喫緊の課題となっている。

そこで河合塾では、新入試に対応できる思考力・表現力を育成・測定するため「思考力・表現力ワーク」「思考力・表現力チェック」「思考力・表現力テスト」「大学入試論述力テスト」を開発した。今回は4つの紹介とともに、「思考力・表現力ワーク」と「思考力・表現力チェック」を導入している福岡県立筑前高校の取り組みをご紹介します。

基礎養成から大学入試の発展レベルまで段階に応じた教材・アセスメント・テストを開発

4つはそれぞれ単体で活用できる。シリーズを通底する思考力・表現力の評価の観点として、①自分が持つ知識を活用して、課題資料の主題やその問題背景を理解する「知識活用力」、②課題文や資料の内容を読み解き、出題の意図や設問要求を把握する「読解力」、③説明すべき要素や自分の見解を適切に構想する「発想力」、④構想した枠組みに沿って構成する「構成力」、⑤考えたことをわかりやすく正確に表現する「表現技術」の“5つのability”を設定した。高1から高3にかけて、教科学習における土台作りから入試対策の礎として、段階を踏んで「思考力・表現力」の育成・測定ができるように設計している<図1>。

利用する場面として、総合的な探究の時間を使った学

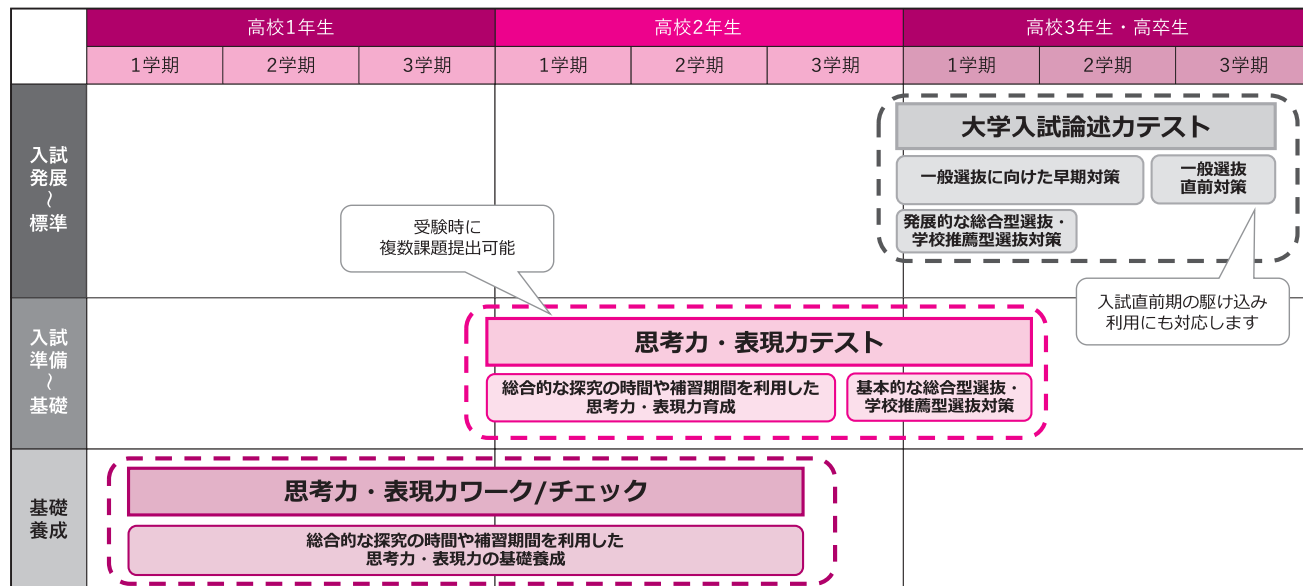
習や、長期休暇中の課外授業での学習、自宅課題などでの利用を想定している。

多様な学習を組み合わせた「思考力・表現力ワーク」 添削指導と振り返り教材で学ぶ「思考力・表現力チェック」

思考力・表現力ワークは、「思考力・表現力」を中心に「知識・技能」「主体性・多様性・協働性」をバランスよく育成するもの、思考力・表現力チェックは「思考力・表現力」を測定するものである。単体での導入も可能だが、交互に活用すれば、思考力・表現力ワークの成果を思考力・表現力チェックで測定しながら学習効果を高めていくことができる。

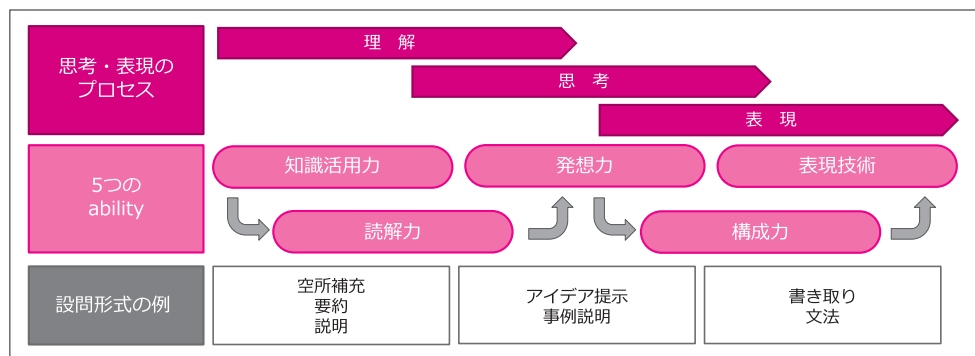
低学年時から取り組みやすいように「文化」「社会」「科学」の3つの教科共通の学習テーマを設定し、履修内容にかかわらず、思考力・表現力の土台作りに活用することができる。各テーマは大学の学問系統との関連付

<図1>思考力・表現力シリーズ ラインアップ



(河合塾)

＜図2＞思考力・表現力を評価する独自の新観点



(河合塾)

けを提示しているため、進路指導にも活用できる。

思考力・表現力ワークには、ノート一体型の「ワークブック」と、「教員ガイド」がある。

学習活動として、講義だけでなく、個人ワーク、

ペアワーク、グループワークを取り入れ、主体性・多様性・協働性を育成する。また、＜図2＞にあるように、「理解」を育成する場面では、知識活用力と読解力の育成を目的として、空所補充、要約、説明形式等の問題を出題している。「思考」「表現」を育成する場面では、アイデアを提示する、事例を説明するといった問題を出題している。「表現」の場面では論述だけでなく、書き取りや文法問題も用意されている。

教員ガイドは、担当教科によらず指導できるよう、授業展開例と指導のポイントなどを掲載している。例えば、学習項目ごとに、想定所要時間、育成をめざす力と指導のポイントや、講義、個人ワークなどの授業展開例を掲載している。また、解答例、評価のポイント例も掲載し、それらを参考に先生ご自身で答案・評価・添削指導できるようになっている。なお、添削や評価を河合塾が行う添削オプションもある。

思考力・表現力チェックは、思考力・表現力ワークと連動したアセスメントであり、答案を作成した後、添削指導と振り返り教材で思考・表現を深めていく構成になっている。問題冊子は3つの学習テーマから選択する。解答時間は50分であり、アセスメント実施後、答案は河合塾に送付し、河合塾で評価・添削する。答案返却時には、生徒向けにテーマの解説、課題文・設問解説、採点基準、複数の解答例、学習テーマと大学の学問系統との関連付けなどを掲載した振り返り教材と、振り返り教材における指導のポイントをまとめた教員ガイドを送付する。

入試で問われる力を測定する「思考力・表現力テスト」

入試本番を想定し実戦力を養う「大学入試論述力テスト」

思考力・表現力テストは、スタートアップガイド（事前学習教材）、テスト、添削答案と学習の手引きがセットになっている。

スタートアップガイドは、授業内や自習用課題としての活用を想定したもので、学習時間30分程度、“5つ

のability”の解説と、出題テーマの予備知識、練習問題、解法のヒントが掲載されており、学習を通して記述法や思考法が習得できる。

テスト問題は特定教科に限定しない総合的な論述問題で、随時実施が可能。総解答字数600字以内、解答時間1題当たり60分である。出題テーマは6つあり、「ノンジャンル」「英文問題」「図表分析型」「医系」「社会系」「人文系」から1～2題を選択して解答する。問題の形式には、論述問題、要約や空欄補充、語句整理型英訳等を含む。河合塾が採点し、5つの各abilityのバランスをレーダーグラフで可視化した上で、評価コメントが付される。

学習の手引きには、学習時間30～60分、テーマ解説、課題文解説、設問解説、添削指導例、学習アドバイスが掲載されている。これにより、テストを「思考力・表現力」の測定に終わらせることなく、弱点克服につなげることができる。

大学入試論述力テストは、入試本番を想定して「思考力・表現力」を測定し、実戦力を育成するためのもので、テスト、添削答案と学習の手引きからなる。

テスト問題は、特定教科に限定されない総合的な内容を含む論述問題で、入試の標準レベルから発展レベルの問題を出題。総解答字数1,000字以内、解答時間は1題当たり90分で、随時実施が可能である。

出題テーマは9つあり、「医系英文」「文系英文」「理科論述型」「図表分析型」「医系」「法政治系」「社会経済系」「人文系」「教育系」から志望大学の出題傾向に応じた問題を1～2題選択して解答する。出題形式、採点や添削の方針、学習の手引きの内容と活用法は、思考力・表現力テストと同じである。

4つの教材・アセスメント・テストはどれも学習時期を問わず通年活用することができる。各校のカリキュラムに合わせて導入し、新入試に必要な「思考力・表現力」の育成に役立てていただきたい。

総合型選抜・推薦入試希望者の増加を受け さまざまなタイプの入試に対応できる基盤として 「思考力・表現力ワーク」と「思考力・表現力チェック」を導入

福岡県立筑前高等学校

進路指導部キャリア形成課長 占部貴弘 先生
教務部図書課長 三苦敏 先生

福岡県立筑前高等学校では、従来から思考力・判断力・表現力を育成する取り組みを行ってきた。2019年度からは、福岡県の「新たな学びプロジェクト」構想を基に、アクティブラーニングの活発化と新学習指導要領を鑑みて、学校創立40周年を契機に「筑前レクチュール活動」と銘打って言語活動の充実を図っている。レクチュールはフランス語で「読書」という意味である。

また、総合型選抜・学校推薦型選抜を希望する生徒に対応するために、今年度から小論文指導の時間に使用する教材として「思考力・表現力ワーク」と「思考力・表現力チェック」を導入した。そこで「筑前レクチュール活動」を担当する三苦敏先生と、進路指導部キャリア形成課長の占部貴弘先生に、これらの取り組みについてお話を伺った。

言語活動の充実を図る 筑前レクチュール活動

本校は福岡市の西部、九州大学伊都キャンパスにほど近い場所に立地している。4年制大学への進学希望者がほとんどで、毎年約100名が国公立大学に合格し、関東・関西の難関私立大学にも多数合格している。

しかしながら近年、生徒の読む・書く・話す力が低下しており、そこに本校の課題を感じていた。そこで教科やその他の教育活動の中から、言語活動の充実に資する活動を取り出し「筑前レクチュール活動」として統合・再編した。この活動の柱を挙げると「朝読書」「ビブリオバトル」「ポスターセッション」である。

朝読書は、生徒に読書習慣をつけさせ、読書を通じて幅広い視野を持ち、読解力や論理的思考、表現力を育成することが目的である。週2回、8:40～8:50までの約10分間、生徒全員が好きな本を読む取り組みで、本年度より各クラスの図書委員の指示のもとに生徒が自主的に取り組むことになっている。

ビブリオバトルは図書委員会の生徒が、文化祭でバトルを募集して行った取り組みを発端に広がった。1年次に行われる宿泊研修で取り入れた学年もあり、本校で根付いてきたことから総合的な探究の時間に位置づけて実施することにした。昨年度はその取り組みが功を奏し、東京で開催された第6回全国高等学校ビブリオバトルの県代表として出場した生徒も現れた。また、創立40周年という節目を迎えていたこともあって、記念式典においてもその発表を披露し、ご来賓の方々にも好評を得た。

ポスターセッションはこれからの取り組みとなるが、すでに本校では2018（平成30）年12月に県でのポスターによる発表会を済ませているという過程があることから、これからの表現力育成につなげていけると考える。

大学進学希望者が多いからこそ、以上のような活動の経験を積み上げることで、最終的には、大学受験における小論文試験、プレゼンテーション型試験や面接試験に対応できる力が育成されることも期待している。（三苦先生）

進路指導部として小論文指導の方針を示し 学校としての指導体制を確立

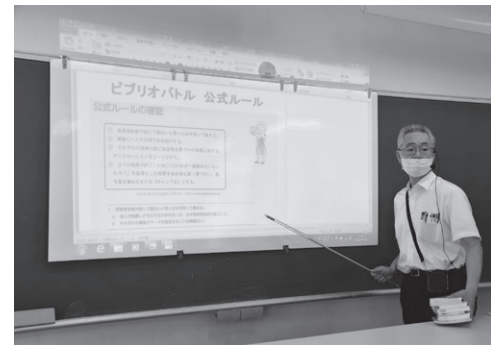
2019年度は、大学入試センター試験の最終年ということもあり、安全志向の傾向が強かった年であるが、本校もその傾向が強く出た。AO・推薦入試の希望者も多かったが、国公立大の一般入試受験者を合わせても、約140名が小論文、プレゼンテーションや面接等が課される試験を受験した。そこで課題に挙げられるのが、これらの入試で課される思考力・表現力を問う設問に対応する力を育成することである。

従来、1・2年生では、進路に割り当てられたホームルームの時間のうち、4～5時間を使って小論文指導を行っていたが、その指導内容は各学年で決めていた。3年生では、入試で小論文が課される大学を受験する生徒に対し、担当者が第3学年の教員を中心としながら全教員に、学部・学科や小論文のタイプに応じた振り分けをし、個別指導を行っている。いままでのように学年に依

存しても問題があるわけではないが、進路指導部として何らかの指導の方針を示す必要があると考えた。そのような折に国語科の教員から紹介されて、河合塾の担当者から説明を受け、進路指導部長とも協議を重ねていった結果、教材を導入することとなった。(占部先生)



占部貴弘先生



三苫敏先生

1・2年生で小論文の基礎を育成するために 「思考力・表現力ワーク」と 「思考力・表現力チェック」を導入

この教材の構成は、個人ワーク、ペアワーク、グループワークによる意見交換、意見の論述というように、段階を追って理解や思考を深め意見をまとめていく構成になっている。また、「教員ガイド」もあり、どの教科の教員であっても指導することが可能な教材だという印象も受けた。

今回1・2年生で同時に購入することにしたが、今年度は、1年生では「文化」、2年生では「社会」の内容について取り扱う予定にしている。大学入試についてまだ実感がわからない時期ではあるが、いまのうちから基礎を育成するための手立てを構築する必要がある。現2年生ではこの教材を1年間、現1年生ではこの教材を2年間かけて使っていき、じっくりと力を伸ばしていければと考えている。

しかし、新型コロナウイルスによる休校措置により、当初の計画通り進められなくなった。5月19日より分散登校、5月25日より通常授業が始まったとはいえ、学校行事自体を大きく変えていかなければならない。このような事態を受け、予定より1カ月早い6月2日に急遽2年生で小論文指導が計画され、教材を使用してみたが、なかなか指導案通りに進めるのは難しいことも実感した。

また、この教材の良さでもあるグループワークを取り入れることが難しい時期なので、どのように展開させていくかも検討課題の一つである。しかし、複数のグラフを読み取り考えて表現するという、もともと持つ教材の良さは使ってみて感じることもできた。これから計画を練り直していかなければならないが、3年生になった時に、この教材が手元に残ることで、いち早く思考力・表現力を課す入試の勉強を始めてくれることを期待したい。

今後、新型コロナウイルス感染拡大の第2波も懸念されるため、再度、休校措置がとられた場合も念頭に置かなければならない。本校ではMicrosoft TeamsやMicrosoft Streamを運用しており、休校期間中に各教科の授業動画の配信や授業スライド等の配信を行っていた。このオンデマンド型の配信機能を利用し、この教材についても動画やスライドの配信をすることで、今後起こりうる休校措置に対応していく、あるいは自学のためのフィードバック動画等も作れたらとも考えているが、まだまだ検討する余地が多くある。私たち教員も今まで通りの授業や教育活動ができなくなっているの、何をすべきなのかを自問自答しながら、進化させていかなければならない。(占部先生)

小論文指導だけでなく 課題研究、口頭試問、面接などでの活用も期待

初年度にあたる今年度は、思考力・表現力ワークを使って授業を行う教員に対しては、基本的にワークと教員ガイドに掲載されている指導案に沿って実施してもらう。ある程度の進度は揃えていきたいと考えているが、予定より進まなかった場合には宿題にしたり、次に指導する授業の案を練り直したり、臨機応変に対応していく。まずは1年間活用し、見えてきた課題を整理した上で、次年度以降どのように指導を進めていくかを検討し、今後の実践につなげていければと考えている。

そして、この教材を小論文というカテゴリーに特化して使用するのはいらない。例えば、「総合的な探究の時間における課題研究」「筑前レクチュール活動」「入試における口頭試問や面接試験」などにも役立てられるのではと考えている。キャリア形成課としては、この教材が最終的には生徒の進路の実現に向けた活動の礎の一つとなることが重要である。生徒の進路の実現という幸せが、未来の多くの人々の幸せにつながっていけるよう、高校3年間という長いスパンで、思考力・表現力を育てていきたいと考える。(占部先生、三苫先生)